

岡山市芳明地区ええとこ発見図

米倉港周辺はかつては大変活があり、荷馬車や旅人が行き交い、舟の出入りも頻繁で食堂や回船問屋、宿屋等もあり中心地だったそうです。又、近年まで米倉港から米倉橋方面に通じる道を、通称「**米倉銀座通り**」とも呼ばれバスも通っていたそうです。時代の移り変わりを思いますか、その頃の光景が目に浮かぶようで、なつかしく愛着を感じる米倉港周辺です。歴史散歩はいかがですか。

まるで「水郷の里」といった感じです。川を利用して、炊事、洗濯、船着場と各家が川に面したところに「かわいち」と言われた勝手口があつたそうです。懐かしい風景ですね。



本章由火明

木野山様は、疫病やコレラ等が猛威をふるつていた頃に、靈験あらたな高染の木野山神社から、分霊をお迎えして回復を祈願したそうです。現在も毎年、祭礼を行ひ無病息災をお祈りしております。



大桶門

大樋門は、広大な土地を開拓し、農業生産をするためには、何よりも水の確保と水の氾濫を防ぐことが必然で、先人の方々の苦労の証です。このあたりには各所に樋門が見られます。



卷之三

米倉港は、水運に恵まれ、水位も深く、又、水路が各地につながつていて、るので、かつては県南の集積場として、舟の出入りも頻繁で大変賑わつておりました。



常慶寺

常慶寺は、この辺りの開拓に大変力を注ぎ、のちに庄屋をつとめていた和氣与左衛門が念佛寺として建立し、新田の祈願と自家の菩提所としていました。今は釈迦如来を本尊とする臨濟宗のお寺です。

「ええとこ発見図」は、自分たちの住んでいる「地域の良さ」を再発見しようという視点で作成したものです。作成過程で、地域を何度も歩くことにより普段見過ごしていた大切な資源を再確認しあい、話し合いを重ねてつくりあげました。いろいろな人と知り合い、お互いを認めあうことで、この地域に住む人の「ええとこ」も再発見しました。そして、今まで以上に愛着が深まりました。この「ええとこ発見図」を利用して、ますます地域の絆が深まっていくことを願っています。

—作成者—同一

